

「祈りと生活」

皆さん、こんにちは。
今日は、「祈りと生活」という題目で説教をしていきます。

成和学生のみなさん、祈るということは、どういう事でしょうか。
お祈りをする時は、まず目をつぶり手を合わせます。そして、私が神様に対して話したいことを語り掛けていきます。「神様と対話をする事」これが、祈るということです。それでは、毎日の信仰生活の中で私たちはどのような時に神様に対して祈るのでしょうか。そして、祈ることは、なぜ私たちにとって大切なのでしょうか。

祈りが私たちに与えてくれる‘導き’と‘恵み’

まず最初に、私たちはものごとの「出発」と「終わり」に、神様に祈りを捧げます。
一日の新しい朝の出発をするために祈りを捧げ、そして、一日の生活を終えて今日の出来事や感じた事を神様に報告する時に祈ります。このように私たちは信仰生活の中で、毎日、朝と夜に神様に対して祈りを捧げます。

それでは、いったい何のために祈るのでしょうか。それは、神様を中心として出発し、神様を中心として終わりを整理することで、神様の心情と愛が私の生活を導いてくれるようにするためです。家から出かける時には、家族に「行って来ます」と挨拶をして、帰って来た時には「ただいま」と挨拶をします。家族であれば出かける時と帰って来た時にしっかりと挨拶をしてよい家族関係をつくっていくように、朝と夜の祈りの時間を通して、私の心が神様とより近い関係をつくっていけるようになるのです。

次に、私たちは感謝をするときに、神様に祈りを捧げます。
たとえば食事をする時です。食事をする時には、まず祈ってから食べます。食事の前に何を祈るのかというと、食べ物を与えて下さった神様に対して感謝するために祈るのです。また、家族が集まって食事をする場合は、食べ物に対してだけでなく、家族が一つに集い楽しく食事ができる時間を神様が与えて下さったことに対しても感謝の祈りを捧げるのです。

信仰生活においては、すべてのものを神様が私に与えて下さっている「恵み」として考えます。そのように考えると食事だけでなく、美しい自然など私たちの生活を豊かにしてくれるすべてのものが神様からの「恵み」になります。私たちはものごとに常に感謝して祈りを捧げる事で、神様に対する心情が深まり、何事にも感謝して大切にすることができるようになるのです。

また、すべてを神様からの「恵み」として受け取るということは、楽しいことや嬉しいこと、素晴らしいことだけではなく、何か困ったことや難しいことがあっても、神様からの恵みとして受け取ります。神様は、常に私たちを愛によって導こうとされています。ですので、何か問題や困難があった時、それを「試練」として、私の成長に必要なものとして受け取るのです。「試練」とは、神様が私を試され訓練するために、神様が私に与えているものなのです。問題や困難があっても神様に感謝して祈りを捧げることで、ものごとから逃げるのではなく、それに立ち向かって克服していこうという姿勢が育っていきます。成和学生の皆さん、祈りを通して神様と対話する生活をしていきましょう。

祈る姿勢

ところで、お祈りをする時に、最初はなかなかうまく祈ることができないものです。すらすらと祈ることができる人もいれば、なかなかうまく祈れない人もいるでしょう。神様の前に心がしっかりと向いて祈るためには、祈る姿勢が大切です。祈りに対するしっかりとした姿勢を持っている人ほど、上手に祈ることができます。それでは祈る時にどんな姿勢を持つことが大切でしょうか。

それは、神様を求める姿勢です。まず、神様がいるということを信じるのが大切です。神様がいるからこそ、神様に語り掛けるのですから、神様なんているのかどうか…という心で祈っても、自分の中から祈りの言葉は出てきません。真剣に心を込めて神様を求めて、神様を感じようとして祈ってこそ、本当の祈りの言葉が自分の口から出てきます。これは、毎日の信仰生活を大切にして続ける中で、神様と自分の心の信頼関係がつけられていきますので、最初はどうもいかになくても、毎日祈り続けていく中でだんだんと祈ることができるようになります。

真の父母様は次のように語られています。

「人間は絶対的な主体の確立を願っているのです。その主体が誰かといえば神様です。それならば、皆さんが祈禱するとき、絶対的な主体を確定したのか、神様は本当にいらっしゃるのか、主体意識が確定されたのかということが問題です。」

私たちの心は、深い深いところで神様を求めています。人生の中で神様を信じている人もそうでない人も、神様！と祈ったことのない人間は一人もいないのではないのでしょうか。人生の中で、本当に幸福な時、また、困難にあってどうしようもない時、私たちは、心で「神様！」と語り掛けて、喜びを神様と分かち合おうとしたり、または、神様に助けを求めるようになるのではないのでしょうか。

誰もが心の奥底で、神様という存在を知っていて求めているのではないかと言えます。私達が祈る時に大切なことは、神様を疑う気持ちではなく、まずはっきりと自分の心を神様へ向けて、真剣に神様と対話する気持ちで祈ることです。

さらに真の父母様は祈りについてこのように語られます。

「主題がなければならず、目的がなければなりません。祈禱をするとき、誰のためにするのでしょうか。これが問題です。誰のために祈禱しますか。神様は、どのような祈禱を喜ばれるのでしょうか。神様のために祈禱するのを喜ばれるのでしょうか、祈禱する人自身のために祈禱するのを喜ばれるのでしょうか。それが分かるので、祈禱するにあたっては、神様のみ意にしたがう私、そこに私が存在するのであって、私が一番目になり得ないのです。

神様が東におられれば自分も東に行こうとし、神様が西に行くことを願われれば自分も西に行くという祈禱をすべきなのです」

天一国時代の祈禱改訂版 p44～45

祈る目的

成和学生のみなさん、私たちが神様に祈る目的について考えてみましょう。

祈りは「心の整理整頓」をするために行います。心を整理整頓するということはどういうことでしょうか。普段私たちの心は楽しさや嬉しさ、悲しさや怒りといった喜怒哀楽を感じながら、とても忙しい生活をしています。忙しく生活をすればするほど心もバラバラに散らかっていきます。ですから、神様を中心として清い心で正しく生活するためには、祈りを通して心をきれいに整理整頓する必要性があるのです。

私たちの心を見つめてみると、心の深いところに本心という神様の願いに従って生活しようとする、神様を知っていて神様を求める心があるのです。これは神様が私たちに与えて下さった心です。本心は、正しく生きよう、正直に生きよう、人のために奉仕をして生活しよう、何事も努力して成長しようとしします。本心は、神様がいるということを知っていて、神様が私に何を願っているのかを知っています。私たちは祈ることを通して、神様に語り掛けながら、自分自身の本心の声を探し出していくのです。

本心に耳を傾けて、本心から出てくる言葉で、自分の生活を神様に報告すればするほど、散らかっていた心が整理されて、自分がどのように生活していかなければいけないか、自分自身でわかってきます。これが祈りを通して心を整理整頓するということです。

私達は真剣に深く祈れば祈るほど、本心を見つめることで、神様の願いに従って生きようとする力が大きくなります。神様の願いを知り、神様の願う自分自身になろうという祈りは、自分のための祈りではなく、神様のための祈りとなるのです。

「神様を呼び、神様と共に話をするのです。特別に座って祈禱するよりも、自分の生活を通して天と共に同化することができる時間をもつのです。そのような時間が祈禱の時間になるのです」

天一国時代の祈禱 改訂版 p213

真の父母様はこのように語られています。

成和学生の皆さん、まず、信仰生活における祈りの時間をしっかりと持ち、次に、日常生活の中でもいつも神様に語り掛け対話する生活に発展させていきましょう。

今日は、「祈りと生活」という題目で説教を行いました。ありがとうございます。